

若手中心に国土保全考察

札幌フォーラムで融雪災対策で討論

斜面防災技術協



斜面防災対策技術協会（奥山和彦会長）は9日、札幌市中央区の京王プラザホテル札幌で第17回斜面防災対策技術フォーラム in 札幌を開催した。全国から約300人が参加し、斜面防災対策技術の若手担当者を中心に国土保全につながる技術発表が行われた。

冒頭、あいさつに立った奥山会長は「設立から36年を迎え、一般社団法人化してこれまで以上に認知される協会として取り組みなければならぬ。東日本大震災を境に、国内ではゲリラ豪雨、火山噴火など自然の猛威には太刀打ちできないのが現状だが、国内に数多く存在する危険箇所対策をマニュアル化し進めたい」と今後の協会の意義を強調した。

次いで開催地を代表して高井修北海道副知事が歓迎の意を述べたほか、古久保英嗣北海道森林管理局長が来賓としてあいさつし、国土交通省砂防部の栗原淳一保全課長のメッセージが読み上げられた。フォーラムでは特別講演として、国土保全学研究室特任教授の南哲行氏が国土保全の危機管理対策などについて「国土を保全する」と題し講演した。技術発表会では3会場で計33編の発表があったほか、「北海道の融雪災害について」をテーマに討論が行われた。フォーラム終了後、技術交流意見交換会もあった。

10日は、小樽市定山溪地域での融雪災害復旧事業などの現地見学会が行われる。